

## 北海道の木工ろくろ木地職人



### ■円館工芸舎の歴史

岩手県の久慈市で「木工ろくろ」の職人として修業をし、昭和42年に北海道網走郡津別町の「阿寒民芸」に引き抜かれて北海道へ。

4年間「木地師」としての技術を磨いた後、昭和46年に美幌町にて「円館工芸舎（美園）」を起業。

円館功を家長として、家族5名が分担作業で営業している小さな工房で、道産材の「槐（えんじゅ）」や「一位（オンコ）」などを使用した茶筒をメイン製品として製造してまいりました。

「木地」とは、木の地肌（木目）の意味で、塗りや彫りなどの加工や装飾を施していない木工品のことです。

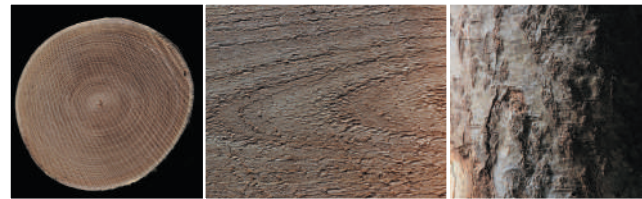
木製品を作る際の木の伐採から塗りまでの工程が、次第に木こりや木地師、塗師などに分業され、それぞれに職人が出来て行きました。

「木地師（木地屋）」とは、木材から様々なものを作り出す職人で、特に「木工ろくろ」という道具を使い、木材を回転させてお椀やお盆などの器を形作る職人を「木工ろくろ職人」と言います。

木の加工には、各種のカナナ棒（刃物）を使い分けて削るため、職人自ら鍛冶を行い、製品に合った刃物を作ります。

### ■円館工芸舎の道産材へのこだわり

当社の製品は、すべて極寒の地に育った北海道産の木材を使用しています。メイン製品である「茶筒」に使用している「槐（えんじゅ）」は、荒々しくも美しい木目と重厚な色合いで風情があり、床柱材などに珍重される銘木です。「円寿」や「延寿」、「縁授（縁を授かる）」などとも記し、寿命を延ばし、良縁に恵まれる縁起物の木として親しまれ、記念品や贈答品にも使用されてきました。硬くて耐久性が高く腐りにくい上、保存性に優れ、匂いも少ないので、食品の器として最適ですが、加工が難しいため、高度な技術が必要とします。同様に一位（オンコ）も銘木とされていますが、近年減少の傾向にあり、貴重になってきています。



円館工芸舎は、新規事業として「星空プロジェクト」を展開しております。地球環境を守ることにより、森林を保護し木工芸品の伝統を守り続けてゆきたいと考えております。



### 7cm天体望遠鏡

木の種類／エゾ松・槐  
望遠鏡の仕様  
倍率／11倍（K25mm）  
対物レンズ／口径70mm  
（2枚玉アクロマートレンズ）  
接眼レンズ／2群3枚（ケルナータイプ）  
三脚は付属していません。



### Wooden Telescope

木の種類／エゾ松・槐  
最長は約50cmある  
大型木製オブジェ望遠鏡  
仙台天文台1.3m  
大型望遠鏡の仕様で制作



北海道の  
木工ろくろ木地職人

円館工芸舎



北海道網走郡美幌町日の出1丁目3-17

TEL.0152-73-4641 FAX.0152-73-0275

2018.11.30-改2

北海道の木工ろくろ木地職人  
円館工芸舎



<http://bien-endate.com>